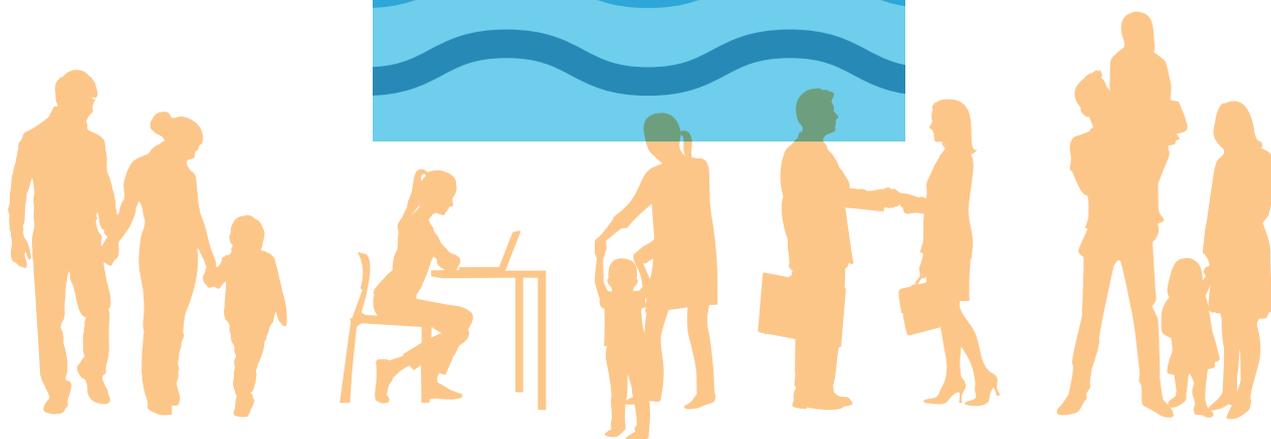


# ヤスハラケミカル

環境・社会報告書 2016

自然と暮らしを科学でつなぐ。



ヤスハラケミカル株式会社

# CONTENTS

- 1 CONTENTS / 会社概要 / 編集方針
- 2 ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～
- 3 会社紹介
- 5 TOP MESSAGE
- 7 経営分野
  - 中長期的経営方針 / 財務ハイライト / 部門別状況
- 9 **特集 1** 「人のチカラ」が会社を強くする
- 11 **特集 2** 福山工場に化成品製造設備を新設
- 13 環境・安全分野
  - 環境・安全に関する基本方針 / 推進体制
  - 【目標達成状況】**  
2015年度の具体的目標と実績 /  
コラム「空調機の省エネ（鶏飼工場）」
- 15 **【事業活動における環境配慮への取り組み】**  
エネルギー使用量 / CO<sub>2</sub>排出量 /  
大気汚染物質の排出量 / 排水負荷物質の排出量 /  
産業廃棄物処理委託量 / PRTR対象物質の排出・移動量
  - 【安全衛生への取り組み】**  
労働災害発生件数の推移 / 休業災害度数率の推移 /  
安全衛生表彰 / 安全衛生・環境に関する資格の有資格者数
- 17 社会分野
  - 【お客様への取り組み】**  
品質管理 / 品質内部監査 / SDS（安全データシート）の提供
  - 【株主・投資家の皆様への取り組み】**  
株主総会 / IR活動 / 株主還元
  - 【従業員への取り組み】**  
仕事と家庭の両立支援 / 健康管理
  - 【地域社会への取り組み】**  
スポーツ支援 / 職場体験学習 / 清掃活動

## 会社概要

- 商号 / ヤスハラケミカル株式会社  
YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.
- 本社 / 〒726-8632  
広島県府中市高木町1080番地
- 創業 / 1947年（昭和22年）4月
- 設立 / 1959年（昭和34年）2月24日
- 決算月 / 3月
- 資本金 / 17億8,956万円
- 主な製品 / ■テルペン樹脂事業  
(テルペン系樹脂)
  - 化成品事業  
(合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス)
  - ホットメルト接着剤事業  
(ホットメルト接着剤)
  - ラミネートフィルム事業  
(光沢ラミネートフィルム)
- 従業員数 / 262名（2016年3月31日現在）
- 証券コード / 4957

### 「環境・社会報告書2016」の発行について

ヤスハラケミカルは、企業活動全般を通じて、持続可能で豊かな暮らしの実現を目指しています。当社の理念に基づく取り組みをご報告し、より多くの方々にヤスハラケミカルの事業活動を知っていただくことを目的に2008年より、環境報告書を発行してきました。環境分野への取り組みだけでなく、社会分野や経営分野への取り組みを掲載していることより、今年からはタイトルを「環境・社会報告書」と改めました。また、すべての方にわかりやすく伝えるため、経営ビジョンや財務情報の充実を図りました。

当社は、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行っています。また、お客様、お取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、地域社会を大切なパートナーと考え、様々な社会活動を続けています。

今後も、パートナーの皆様からのご意見を伺いながら、さらに情報の拡充を図り、よりわかりやすい報告書へと進化させてまいります。

### 編集方針

- 報告対象範囲  
ヤスハラケミカル株式会社管理部門及び生産拠点
- 報告対象期間  
2015年4月～2016年3月（一部期間外のトピックスを含みます）
- 次回発行予定 ※2017年6月発行予定です。
- 発行担当部署  
ヤスハラケミカル株式会社 総務部  
TEL (0847) 44-6082 (ダイヤルイン)  
FAX (0847) 45-8639

本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願いいたします。

# ヤスハラケミカル～私たちの考え方～

## 基本理念

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、  
産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

テルペン化学で培った創造と挑戦の精神をもって、自然界の無限の可能性を引き出し、  
産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、社会の発展、便利な暮らし、心豊  
かな暮らしに貢献します。

### ヤスハラケミカルの紹介

ヤスハラケミカルは環境にやさしい天然由来の「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、粘・  
接着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料、塗料の添加剤などの工業原料を製造しています。

### ヤスハラケミカルの目指すところ

私たちは、従来利用されていなかったものに原料としての有効性を見出し、「社会に還元する」  
精神のもと高付加価値な製品を提供してきました。今後も、事業活動を通じて、社会の発展、持  
続可能な暮らしの実現を目指してまいります。



## ヤスハラケミカル テルペンから生まれる製品

オレンジジュース製造の副産物であるオレンジオイルと、松脂や松のチップなどから得られるテレピン油を原料として、各種テルペン成分を分離精製しています。それらを付加価値の高い製品へと加工し、国内はもとより広く世界へ送り出しています。高い技術力から生まれる製品は、海外でも高い評価を得ています。

### 「テルペン」 とは？

植物の体内で作られる物質で、オレンジなどの柑橘類の皮から採取される「オレンジオイル」や松の木から採取される「テレピン油」に多く含まれています。テルペンは、将来の枯渇が心配される石油資源とは異なり、植物が太陽の恵みをもとに繰り返し作り出すことができる再生可能な貴重な資源です。



自社で生産したテルペン樹脂からホットメルト接着剤事業を、ホットメルト接着剤事業からラミネートフィルム事業を展開しています。原料であるテルペン樹脂の特徴を活かした製品開発が当社の強みであり、環境にやさしく、高品質な製品をご提供いたします。

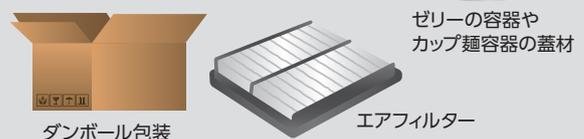
### テルペン樹脂

天然素材であるテルペンを主原料としており、粘・接着剤用の粘着付与剤、ゴム・プラスチック等の改質剤として、幅広い用途に利用されています。



### ホットメルト接着剤

テルペン樹脂を利用し、ダンボール包装用接着剤、日用雑貨用接着剤、フィルターなどのアッセンブリー用接着剤、ゼリー容器などの蓋材向け押出し加工用樹脂を製品化しています。





国内・海外の  
お客様へ

当社の作り出す製品は、  
世界各地の人々の暮らしに  
役立っています。

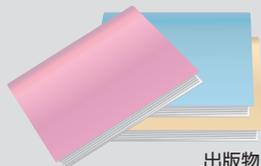


## ラミネートフィルム

製本の光沢やショッピングバッグなどの艶出し用フィルムとして使用されます。OPPやPETフィルムにホットメルト接着剤などの接着樹脂を押し出し塗工しており、熱圧着することで貼り合わせることができます。



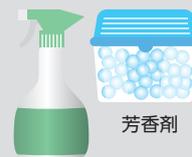
ショッピングバッグ



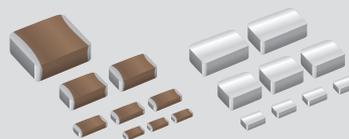
出版物

## 化成品

オレンジオイル、テレピン油を精製・異性化して得られるテルペン誘導体を香料原料、溶剤、洗浄剤等に展開しています。



芳香剤



積層セラミックコンデンサ (MLCC)



洗浄剤

## 10年後20年後を見据えて人を育て、

景気に左右されず利益を生み出す体質と、「次の需要」を創り出す努力を続けていきます。

2015年のニュース報道などでは、中国経済減速やアベノミクスの経済効果への先行き不安などが数多く取り上げられていました。一方で、株価に関しては、株高になり景気が回復しているように報道されています。しかし私は、景気がよいという報道と、個々の企業が感じている経済の動きにはズレがあるように感じています。

確かに過去2年間続いた円安は株高をもたらし、円安に伴い輸出企業は円安分だけ業績があがりました。しかし、数字をよくみると輸出数量は増えていません。株高のプラス効果は実体経済にはあまり影響していないとみるのが妥当です。実際、国内の多くの企業では賃金上昇や雇用の拡大には繋がっていません。日本全体では利益が出ているように報道されていても、個々の企業をみってみると利益を出している企業は一部に限られているのが足元の状況です。

このような経済状況では、かつてのような市場の拡大は期待できません。また新しい市場が突然目の前に現れることもありません。需要の大きな伸びがない中でいかに多くの収益をあげるかが、多くの日本企業に問われているといえるでしょう。

そのためには景気に左右されず、「利益を創出する体質」と「次の需要」を企業自らが創り出すことが大切になってきます。ヤスハラケミカルでは、そうした体質を身につけるために「収益性改善」「新規開拓」「グローバル展開」という3つの中長期的経営方針を掲げています<sup>(※1)</sup>。

(※1) 詳細はP.7「中長期的経営方針」をご参照ください。

ヤスハラケミカル株式会社  
代表取締役社長

安原 稔二 Teiji Yasuhara

# 地域と共に歩む企業であり続けたいと願っています。

「収益性改善」「新規開拓」「グローバル展開」、  
3つの目標に向かって着実に前進しています。

収益性改善に関しては、より強い収益構造を構築するため、これまで各事業所の生産設備の整備を進めてきました。今年度は福山工場に新設した化成品製造設備<sup>(※2)</sup>の稼働を開始します。この設備新設に関するプロジェクトは若いエンジニアたちが中心となって意欲的にチャレンジしてもらっています。設備新設による技術革新の機会が若いエンジニアたちの教育投資にも繋がったことは、大きな喜びです。

新規開拓では、自動車タイヤ向けや医療向けなどの戦略分野を選定し、着実に成果をあげつつあります。今後も新製品、新分野開拓を加速させていきます。グローバル展開においては新興国市場などの成長する分野の取り込みを行うとともに、付加価値を認められる製品や分野を見極め積極的に展開してまいります。

市場は成熟しており「もう成長分野はない」と思われるかもしれませんが、私は消費を刺激する「次の需要」を創ることは可能だと考えています。例えば携帯電話ではいわゆるガラケーがスマホに変わり、自動車業界には自動運転の流れが来ようとしています。市場の変化を捉えれば、まだまだ成長する分野があるはずで

す。そのためには市場変化をいち早く察知する洞察力が必要のため、これからはますます人への投資が大切になると考えています。

(※2) 詳細はP.11 特集②「福山工場に化成品製造設備を新設」をご参照ください。

次の需要を創出する「人のチカラ」を引き出すために、  
将来投資として「人への投資」を積極的に行っています。

福山での化成品製造設備新設プロジェクトにも現れているように、会社を強くする原動力は「人のチカラ」<sup>(※3)</sup>だと考えています。6年前から人を育てるプロジェクトに本格的に取り組んだ結果、今ではしっかりとコミュニケーションをとる意識も高まり、一人ひとりの社員が少しずつステップアップしていることを感じています。

また「人のチカラ」を強くする一つ的手段として、インプットをもっと増やすことも大切です。具体的にはもっと本を読むことも有効です。

私は、日本人はニュース報道や活字で書いてある説明を、鵜呑みにしすぎなのではないかと心配しています。人が書いたものをそのまま信じて、自分で調べることをしなければ、思考は深まらないし俯瞰するチカラも養えません。

お客様が望むニーズを感じるには、物事を多面的にみるチカラが必ず必要になります。だから社員たちには、日常からもっと本を読みインプットを増やしていくことを奨励しています。

(※3) 詳細はP.9 特集①「人のチカラが会社を強くする」をご参照ください。

企業の最も大切な社会的責任は「継続」することです。  
これからも地域との繋がりを大切にしていきます。

新しい需要を創出するためには、革新的な発想とともに、それを継続するチカラも必要です。世界的な企業に成長したアメリカのあるインターネット通販会社は、発想も継続性も競合他社とは大きく異なっていました。インターネット黎明期にはネット通販をはじめた企業は米国に多数ありましたが、その会社はお客様が欲しい商品を一人ひとりにあわせて提供することに着眼しました。そして、その会社のネット通販サイトに行けば欲しいものが必ずあるということを実現するため、全米各地に次々と大型倉庫をつくり多種多様な商品を確保しました。周囲からは過剰投資との批判を浴びましたが、お客様が欲しいものを提供・提案できることを目指し続け、今ではライバルを大きく引き離す大企業になりました。先見的な発想と継続性が「次の需要」を創り出した例です。

ヤスハラケミカルが目指しているのも、この例と同じく豊かな発想と想いを信じて努力することにより「次の需要」を創り出すことです。だから私たちは、社員一人ひとりの発想を伸ばす投資は惜しみません。そして私たちを支えてくださる地域との繋がりを大切にしながら、戦略や信念を「継続」し「次の需要」を創り続けることで、10年後も20年後も、地域と共に歩んでいく企業であり続けたいと願っています。

## 中長期的経営方針

2010年以降、設備と人の両面から、体質改善による基盤強化を推進してまいりました。中長期的経営方針としては、収益性改善、新規開拓、グローバル展開を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

### 「人のチカラ」

中長期的経営方針で掲げた目標を達成するためには、「人のチカラ」が最も重要であることを強く認識しています。そのため、社員の意識改革に繋がる教育投資、自律型人材育成を積極的に推進してまいります。ヤスハラケミカルは、従業員一人ひとりが筋肉質になることを目指しています。筋肉質であるためには、例えば、情報をただ集めるだけではなく、読書などにより知識を増やし、情報を編集する力を身につける必要があります。知識が増えると、視野が広がり、創造性が育まれ、競争に負けない力を発揮できるようになると考えています。長期的視点に立って、「人のチカラ」を伸ばしていきます。

### 収益性改善

高収益製品の売上増加、工場の合理化推進を図ることにより、利益を創出する収益構造を確立します。



収益性  
改善

人のチカラ



グローバル  
展開

新規開拓



### グローバル展開

新興国市場など成長を取り込める事業を展開している顧客を重点的かつ積極的に探索することで、海外市場の新規開拓と拡大を目指します。



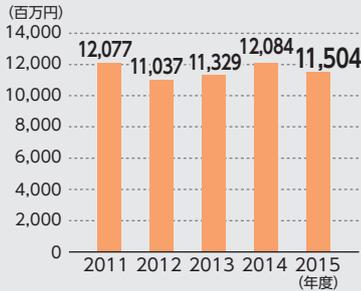
### 新規開拓

研究開発と事業化の加速を図りながら、付加価値の見込める分野、用途を積極的に開拓します。



## 財務ハイライト

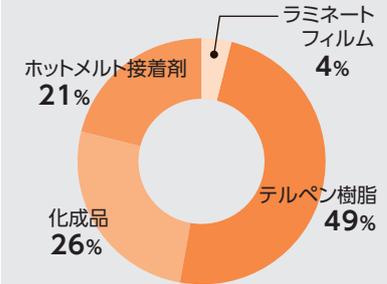
### ●売上高の推移



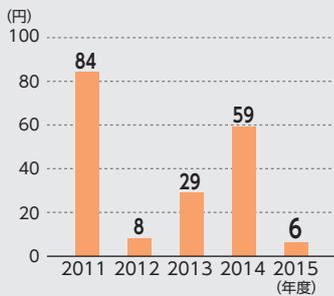
### ●経常利益の推移



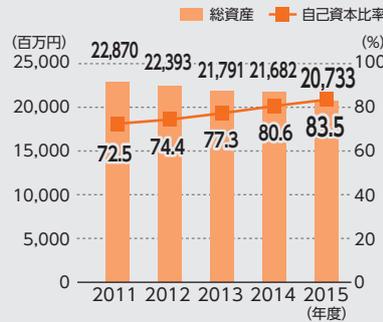
### ●部門別売上比率 (2015年度)



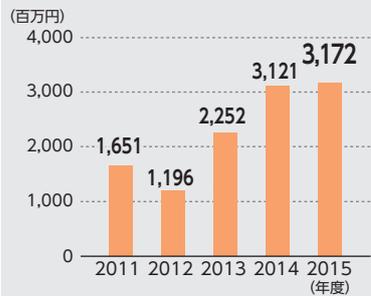
### ●1株当たり純利益



### ●総資産/自己資本比率



### ●現金及び現金同等物の期末残高



## 【部門別状況】

### テルペン樹脂

近年は、環境対応製品や自動車関連部品、光学、医療などの高付加価値分野のほか、高い再生可能資源利用率や耐候・耐熱性といった特徴が活かされる分野の開拓に注力しています。

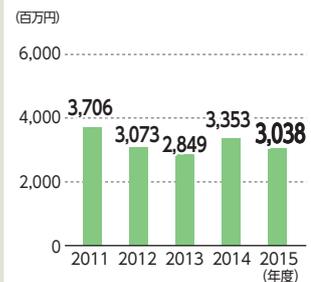
#### ●売上高の推移



### 化成品

本事業の収益性向上のため、電子部品向け溶剤や特殊化学品の拡販と、環境対応分野や生理活性分野などテルペン類の機能が活かせる用途開拓に努めています。

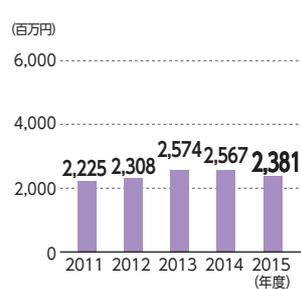
#### ●売上高の推移



### ホットメルト接着剤

熱安定性の良い包装用接着剤の展開と、透明性が高く、加工性の優れた食品包装材料用押し出し樹脂の実用化を進めています。

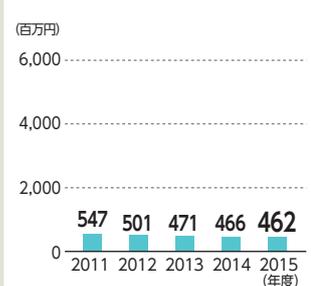
#### ●売上高の推移



### ラミネートフィルム

光沢市場が縮小する中、収益性向上のため、不織布に筋状コーティングした通気性のあるラミネート材の用途探索を行っています。

#### ●売上高の推移



## 自律型社員の育成を強化し、「人のチカラ」で会社を強くします。

ヤスハラケミカルは「人のチカラ」を引き出すための人材教育や研修を積極的に進めています。2015年のテーマは「管理職マネジメント力強化」と「自律型社員の育成」。今回は「自律型社員の育成」の取り組みについてご報告します。

### 人材育成の 基本方針

ヤスハラケミカルでは、2009年より人材育成プロジェクトを導入し、若手社員・中堅社員・管理職を対象に、毎年さまざまな教育・研修プログラムを行っています。

2015年は「管理職マネジメント力強化」と「自律型社員の育成」をテーマに、管理職向けには個々のレベルに応じた研修（個別コーチング）を、中堅社員向けには主体的な姿勢とコミュニケーション活性化を意識する研修を実施しました。

これらの研修を通じて、全社的にコミュニケーションを活性化するとともに、自分で課題を見つけ、自分で考え、自分で行動を起こす「自律型社員」の育成強化をはかります。

### 自律型社員 インタビュー



気づきや疑問があれば、小さな事でもすぐに調べることが課題解決につながるのではないのでしょうか。

#### 》》》 ヤスハラケミカルに入社の経緯からお聞かせください。

小さな頃からものづくりには興味があり、機械いじりとか好きでした。大学は電気機械系の学部を選びました。ヤスハラケミカルに入社したのは24歳の時で、化学の知識がなく入社したので最初は何もわからずに液体と粉を混ぜていました。それが入社して5～6年経つ頃には、ラインの流れもわかるようになり、自分なりに工夫を加えたり、改良したりしていました。

#### 》》》 3年前に現在の部署に異動されていますが、部署異動により、異なる業務へのとまどいはありませんでしたか。

技術一部に移ってからは、知らないことや新しいことばかりで、毎日楽しくてワクワクの連続でした。新しい業務ですから消防法など知らないこともありますが、わからないことは、すぐに先輩に聞いたり、インターネットで調べたりしています。その後、専門書や資料で確認したりしてわかるようになると、とても楽しいです。

#### 》》》 気づいたことをすぐに調べることを大切にされているんですね。

それと、いろいろな人と話すようにしています。思っていることを言わないのは好きじゃないし、発信することで解決することもあるから。自分は、話すことは苦手ではないし、物怖じしない性格だと思います。

これからも自分なりのスタイルで、新しいことにチャレンジしていきたいと考えています。



技術一部技術一課 内山 雄一郎



### 上司の目

技術一部技術一課 課長  
下江 康太

内山君の一番の良さは、しっかりとした自分の意見や意志があり、それを自分の言葉で伝えられる点です。彼は中途採用で入社し製造を担当していたのですが、工程のことを尋ねると、よく知っているし原理もよくわかっていて、考えて装置を使っている印象がありました。それをちゃんと人に伝えることができる能力もあることがわかり、製造から技術一部に異動してもらうこととなりました。今は福山工場の新プラント設計を担当してもらっていますが、期待以上の働きをしてくれています。今後は化学工学の知識などを習得し、さらに活動領域の幅を広げていくことを期待しています。

## ■ アクションラーニング研修

アクションラーニングは、個人や組織が抱える現実の問題をテーマにし、その解決策をチームで立案・実施・改善していく学習法です。ヤスハラケミカルにとって2015年が初の試みで、異なる部門から役付者7名が集まり、6月から11月まで5回にわたって行われました。

【第1回】	6月10日	講師との個別面接(1回目)
【第2回】	7月9日・10日	グループ討議(1回目)
【第3回】	8月11日	講師との個別面接(2回目)
【第4回】	9月14日・15日	グループ討議(2回目)
【第5回】	11月16日	グループ討議(3回目)

### VOICE

自社の課題を題材にしての研修だからこそ得られたものがありました。研修参加のメンバーとの連携も強まったと感じています。

アクションラーニングのような実践的な研修は、初めての経験でした。研修では各職場での課題や悩みをそれぞれが持ち寄り、それを皆で真剣に考え討議します。討議の上で自らが抱える課題の解決方法を自らの意思で決定し宣言します。宣言した内容は各自が職場に持ち帰り実践し、次回のグループ討議の時には、その実践結果を再びグループで共有、議論します。グループ討議の中でより良い解決策に近づけていくので、PDCAサイクルを体感するような経験になりました。自分は上司や部下の役割についてをテーマに臨んだのですが、グループ討議の中でいろいろな発見がありました。一般的な研修では大企業のケースをもとにしたケーススタディが多いと思いますが、今回の研修は同じ会社の同僚が抱える課題のため、より共感しやすく、自らの視野を広げることができたと感じています。研修に参加したメンバーの取り組みや成果を聞くことで、刺激を受け、自部署での取り組みの参考にもなりました。研修での経験は、今でも職場での課題解決に活かすことができている。



研究一部 藤岡 健

## ■ 中堅社員研修

中堅社員を対象に毎年行っている研修で、1泊2日のスケジュールで集中的に行い、主体的な姿勢の構築や自己分析、他者理解など多様なプログラムをこなしながら、中堅社員としての心構えや行動を再確認していきます。

研修プログラムの一つでは、暗幕内に隠されたブロック模型を見た一人ひとりの情報を集めて全員で討議しながら完成させるビジネスゲームを行いました。そのゲームには、個々の役割を的確に意識することや、洞察力、コミュニケーション技術を磨く大切さを学ぶ狙いがあります。



### VOICE

自分が積極的にコミュニケーションをとることで、周囲の雰囲気も少しずつ変わってきたように感じています。

全員に笑顔で挨拶してまわるゲームや、自分の性格を内観し他者理解との差を認識するワークショップなど、狙いがハッキリしており、自分にとっては貴重な体験になりました。中でも印象に残ったのは隠れたブロック模型を見本として、チームで推理しながら同じ模型を完成させるゲームで、言葉だけで伝える難しさや、チーム内での役割や段取りをとることの大切さを学びました。

研修後は、自分自身が積極的に対人関係を築いたり会議でも積極的に発言するようになり、職場の雰囲気も少しずつ変わっていているように思います。

営業本部営業業務担当  
中東 弘明



コミュニケーションをとることが自分の心にも余裕を与え、仕事をもっとスムーズに進むことに気づきました。

研修を通して最も印象的だったのはビジネスゲームで、私が伝えたいことと他人の解釈にズレがあったりして、本質を的確に捉え、他人に伝えることの難しさに気づかされたことが大きな経験になりました。

また自分はある程度やれているつもりの部分もあったけれど、もっとできることがあるのではと思えるようにもなりました。そして人とコミュニケーションを積極的に行えば、自分の心にも余裕が出て、仕事のスピードが変わることに気づかされました。これらの経験から今後は、毎日の事務作業の中で小さな事も積極的に発言や提案をすることで、少しずつでも変えていければいいなと思っています。

経理部財務課 沖津 涼子

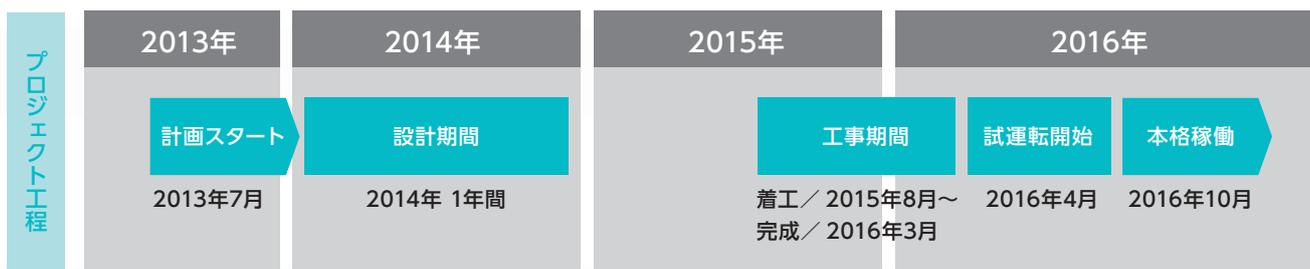


# 2016年4月、 福山工場に化成品製造設備が完成！ 収益構造を強化し、利益を創出していきます。

2016年6月現在、福山工場では主要製品カテゴリーの一つである化成品製造設備の新設プロジェクトが最終段階を迎えています。10月の本格稼働を目指して準備を進めるキーパーソンからプロジェクトの概要や新設備の特長などをレポートします。

## ■ 福山工場への化成品製造設備新設プロジェクトの概要

当社主力製品である化成品の一部はこれまで高木工場で生産しておりましたが、製造設備の老朽化のため、このたび化成品製造設備を福山工場へ新設しました。新設した製造設備では、ワックスやテルペン化学品を主に生産します。新設備では新技術を積極的に導入し、現場での作業性や品質の安定性をこれまで以上に高めることで、より高品質な製品の提供が可能となります。本格稼働は10月からの予定で、今後は、化成品事業における収益構造の改善も期待できます。





## 若手社員中心のチームでチャレンジしました。

生産本部 本部長 兼 技術一部 部長 栗本 倫行

プロジェクトの開始は3年前で、老朽化してきた高木工場の化成品製造設備の設備更新の検討から始まりました。検討にあたっては、単なる設備の更新だけでなく、収益性をはじめ、品質管理や作業効率、安全性や環境面など、さまざまな角度から慎重に検討しました。その結果、生産環境が整っている福山工場へ設備を新設することを決定しました。その後、約1年間かけて設備設計、翌2015年度に建設というスケジュールで進めてきました。プロジェクトチームは、若手社員を中心に5名のメンバーで構成しました。経験が少ないチームのため会社側としては不安要素があったかもしれませんが、プラント新設というめったにない機会を会社から与えられたことに喜びがあり、「チャレンジしよう!」というポジティブな雰囲気の中でプロジェクトを進めることができました。



## 設計ではコストとパフォーマンスのバランスを心がけました。

技術一部 技術一課 課長 下江 康太

設計では、まずはプロセスフロー作成と建築エリア設定からスタートしました。設計する際は、安全性や作業面、品質面を優先すると高性能な機器を選定したくなるのですが、コスト面を考えるとプロジェクト費用全体を抑制することが大切になります。コストとパフォーマンスのバランスを考えることに苦労しました。また設計中に建築資材や人件費が高騰していったので、コスト抑制のための調整にも苦労しましたが、なんとか予算内に収めることができました。設計面での特徴は、作業ラインをインライン化したことで、作業効率の向上はもちろん、作業安全性も飛躍的に高まります。また品質の安定にもつながるはずですが。



## 新設備へスムーズに移管するため万全の準備を進めています。

福山工場 工場長 藤岡 辰樹

2016年6月現在での移管実務に関しては、建物や設備が完成した4月から製品を順次移管しつつ、新設備で試運転とサンプル製造をして、お客様に品質を確認していただいている段階です。10月の本格稼働開始までには、設備操作上のルールづくりやマニュアルの整備も行います。また、新設備で生産した製品の品質確認が得られるまでの担保として、高木工場の設備を動かして充分な在庫を確保するようにしています。一部設備に連続生産方式を取り入れるなど新技術の導入もあり、作業効率があがるだけでなく、品質も安全性も向上します。新しい設備で製品をつくれるというのは、ものづくりの現場にいる人間としては挑戦する楽しみがあり、ワクワクしています。



ヤスハラケミカルは、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行うことで、持続可能で豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

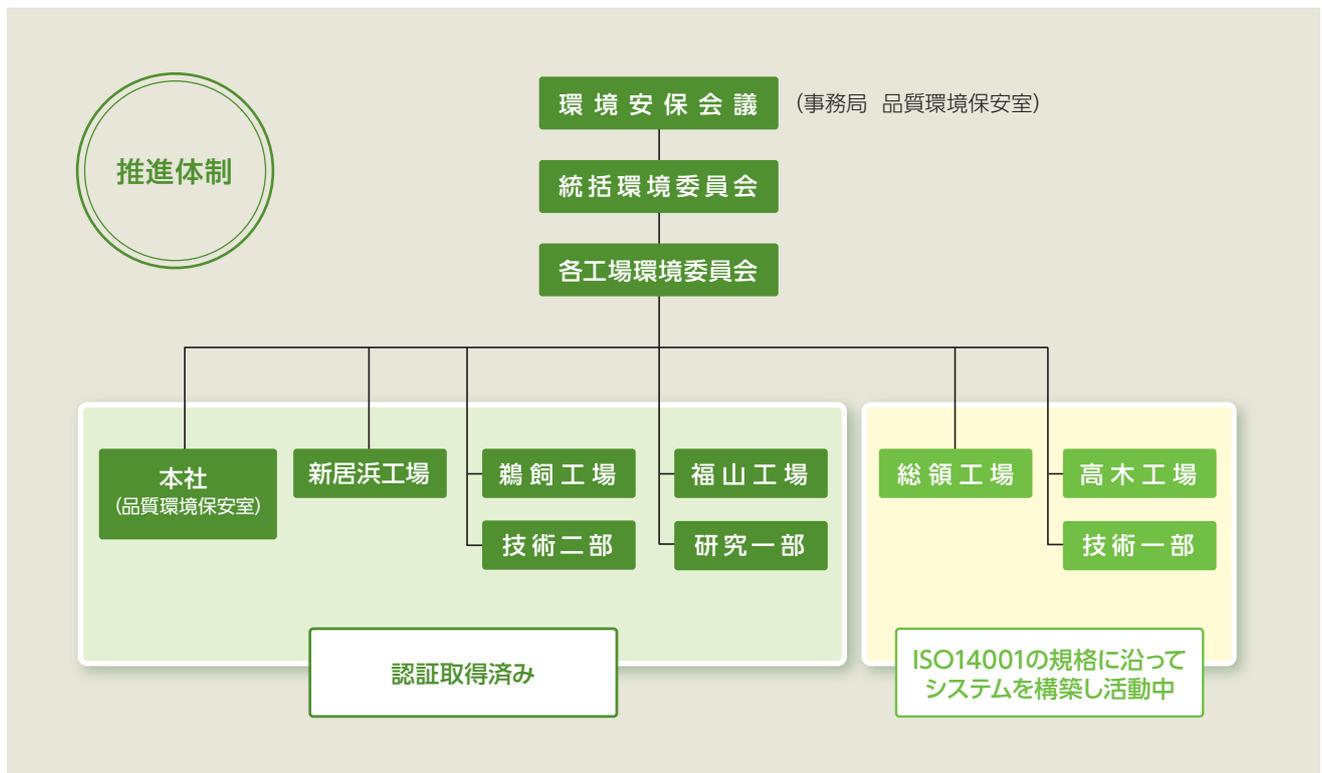
## 《 環境・安全に関する基本方針 》

- 1 天然物の有効活用による安全で環境負荷低減型製品の開発により、各産業分野における地球環境保護(省資源、リサイクル、健康有害物の排除など)の推進に貢献する製品を提供することで社会に貢献します。
- 2 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクル全般にわたり、環境負荷の低減を図り、環境保護に努めます。
- 3 無事故・無災害の操業を継続し、従業員と地域社会の安全を確保します。
- 4 原料、製品の安全性を確認し、従業員、物流業者、顧客など関係する人々への健康障害を防止します。

全従業員は、この方針の重要性を認識し、法令、規格及び社内ルールを順守するとともに、常に改善に努力すること。

2006年5月2日

ヤスハラケミカル株式会社 代表取締役社長 安原 禎二



# 目標達成状況

## 2015年度の具体的目標と実績

ヤスハラケミカルでは、各サイトでの環境目標を数値設定、励行することで、事業活動全体における環境負荷の削減を推進しています。

環境活動の目標と実績				
活動テーマ	2015年度目標	2015年度実績	評価	2016年度目標
環境マネジメントシステム (EMS) の推進	EMS認証取得3工場の認証更新	3工場の認証更新	○	3工場の認証維持
省エネルギーの推進	エネルギー原単位前年度比1%削減	エネルギー原単位前年度比1.1%削減	○	エネルギー原単位前年度比1%削減
温室効果ガスの排出削減	CO2原単位前年度比1%削減	CO2原単位前年度比2.4%削減	○	CO2原単位前年度比1%削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物排出原単位削減	産業廃棄物排出原単位前年度比6%増加	×	産業廃棄物排出原単位削減
	廃棄物排出量削減	横ばい	×	廃棄物排出量削減
化学物質の適正管理	PRTR排出量削減	PRTR排出量前年度比7%削減	○	PRTR排出量削減
	化学物質リスクアセスメントの継続実施	化学物質リスクアセスメントの実施	○	化学物質リスクアセスメントの継続実施
災害・事故	休業災害・事故ゼロ	休業2件・事故1件	×	休業災害・事故ゼロ
環境報告書*発行	年1回発行	6月発行	○	年1回発行

◎目標を大幅に超えて達成 ○目標を達成 ×目標を達成できなかった

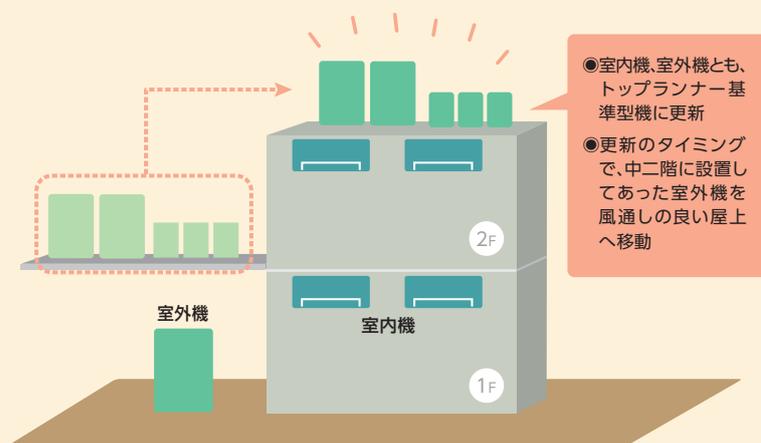
\*2016年度より名称を「環境・社会報告書」に変更



### COLUMN

#### 空調機の省エネ(鵜飼工場)

鵜飼工場事務棟では、省エネルギーを目的として、2015年11月にすべての空調機をトップランナー基準型機に更新しました。また、室外機については、更新のタイミングで、設置場所についても見直しました。これまで中二階に設置してあった室外機は、屋上へ移動させることで、メンテナンスがしやすくなっただけでなく、風通しの良さにより熱交換の効率改善にもつながりました。今回の空調機更新による効果としては、事務棟空調用の消費電力を年間で33%程度削減できる見込みです。

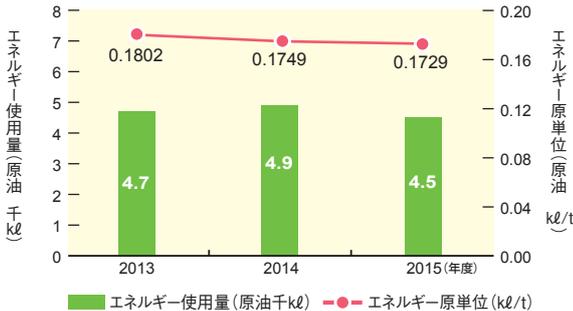


# 事業活動における環境配慮への取り組み

## エネルギー使用量

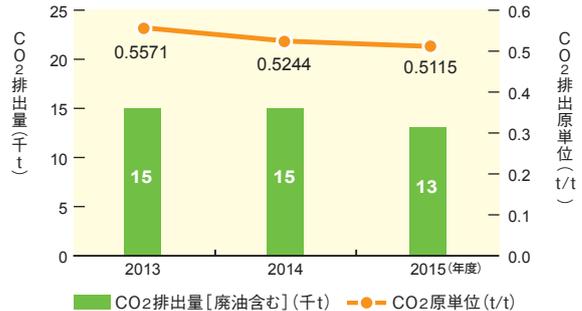
2015年度は生産性向上の継続、空調機のトップランナー化などの省エネルギー活動に取り組み、エネルギー原単位は前年度比1.1%減少しました。

引き続き省エネに関する情報を収集し、幅広い視点で省エネルギー活動を継続してまいります。



## CO<sub>2</sub>排出量

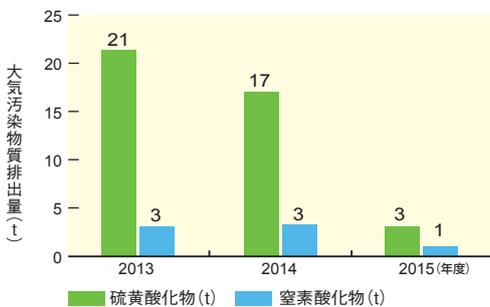
2015年度は省エネルギー活動により、CO<sub>2</sub>排出原単位は前年度比2.4%減少しました。引き続きCO<sub>2</sub>排出削減に努めます。



## 大気汚染物質の排出量

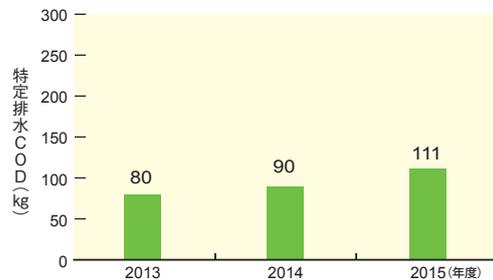
2015年度は2014年度からの低硫黄燃料への転換により、硫酸化物排出量は前年度比78%減少しました。

引き続き大気汚染物質の排出削減に努めます。



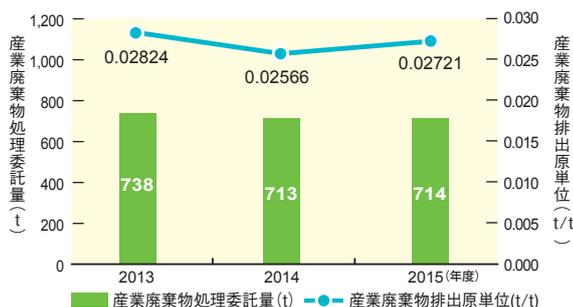
## 排水負荷物質の排出量

2015年度は生産品目の変動によりCOD負荷量は前年度比23%増加しましたが、排水の適正な管理及び排水負荷低減の活動は今後も続きます。



## 産業廃棄物処理委託量

2015年度は生産設備の整備による廃棄物の増加にともない、産業廃棄物排出原単位は前年度比6%増加しましたが、産業廃棄物削減、有価物への転換などの活動は今後も継続します。



## PRTR対象物質の排出・移動量

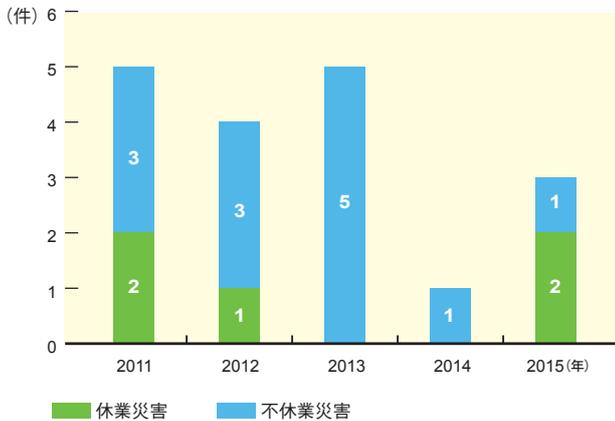
2015年度は生産品目の変動により、PRTR対象物質排出量は前年度比7%減少しました。引き続きPRTR対象物質の排出・移動量の削減に努めます。



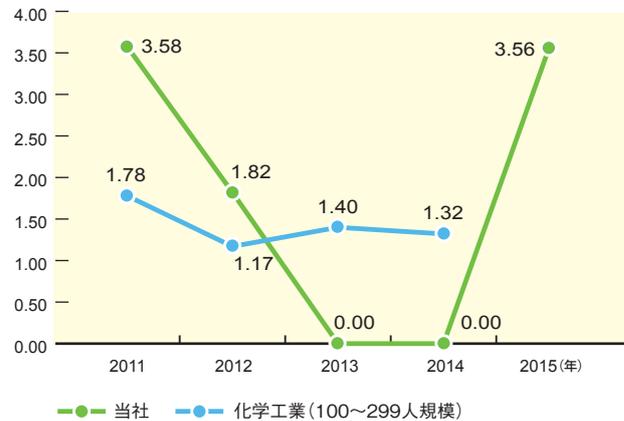
## 安全衛生への取り組み

ヤハラケミカルは、安全を最優先に事業活動を行い、安全、健康そして快適な職場づくりに取り組んでいます。

### ▶▶▶ 労働災害発生件数の推移



### ▶▶▶ 休業災害度数率の推移



※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生頻度を表す。  
 ※出典：厚生労働省「平成26年労働災害動向調査（一般産業統計表2）」（平成27年11月4日公表）

### ▶▶▶ 安全衛生表彰

永年にわたり安全衛生活動と災害防止活動に努めたことが評価され、次のとおり各工場が関係団体から表彰されました。

表彰日	表彰工場	表彰内容
2015年6月15日	川内工場	鹿児島県危険物安全協会会長賞
2015年7月1日	総領工場	広島労働局長奨励賞

また当社では、職場ごとに労働災害無災害日数の目標を第1種から第10種まで定め、その目標日数に到達した場合、安全表彰を行っています。2015年度中に表彰を受けた職場は表のとおりです。

※第1種達成とは、定められた目標日数の間、無災害の場合をいい、目標日数を超えた場合、その倍数ごとに第2種、第3種と継続する。

達成日	表彰職場	表彰種別
2015年4月5日	福山工場製造課	第3種
2015年5月11日	川内工場	第2種
2015年5月15日	技術一部技術一課	第1種
2015年6月7日	高木工場製造課	第4種
2015年7月27日	高木工場業務課・工務担当・警備担当	第1種
2015年8月20日	本社事務所	第8種
2016年1月15日	鶴飼工場検査課	第1種
2016年1月17日	鶴飼工場製造課・工務担当	第8種
2016年2月12日	研究一部	第1種
2016年2月15日	技術二部	第3種

### ▶▶▶ 安全衛生・環境に関する資格の有資格者数

当社では、安全衛生・環境に関わる必要な資格の積極的な取得に努めています。

法的に定められた選任者は充足していますが、新入社員をはじめとした若手従業員を中心に資格取得の推進を図り、スキルアップにつなげています。

資格名称	有資格者(名)	
	2014年度	2015年度
公害防止管理者	15	15
エネルギー管理士	8	8
衛生管理者	12	13
特別管理産業廃棄物管理責任者	7	7
ボイラー技士・整備士	44	45
危険物取扱者	171	174
消防設備士	15	17
高圧ガス製造保安責任者	59	61

## お客様への取り組み

### 品質管理

品質方針として「お客様の満足と信頼をいただくために、常にニーズに合った品質の製品を経済的、安定的に提供します。」を掲げ、各工場で品質マネジメントシステム ISO 9001を取得して全社的な品質保証活動を実践しています。

ISO 9001  
取得状況

	登録番号	登録日
高木工場	JCQA-0749	2000年7月31日
鶴飼工場	JCQA-0817	2000年12月18日
福山工場	JCQA-0749	2007年6月18日
総領工場	JCQA-0817	2003年6月23日
新居浜工場	JCQA-0472	1999年4月12日

### 品質内部監査

品質保証活動についてさらなる向上を目指し、毎年各工場の全部署に対して品質内部監査を実施しています。約60名が品質内部監査員に社内認定されており、監査員のレベルアップを目的に2015年8月には外部講師を招いて「ISO 9001に基づく効果的な内部監査の方法」の研修会を開催しました。

### SDS (安全データシート) の提供

国内では、SDSは化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法で提供が義務付けられています。当社は全製品について、JIS Z 7253:2012に準拠した「安全データシート」(SDS)を発行し、お客様へ必要な危険有害性情報を提供しています。

## 株主・投資家の皆様への取り組み

### 株主総会

2015年6月16日に開催した第57期定時株主総会には、約50名の株主の皆様に参加いただきました。株主の皆様との対話の場の実現に努めるヤスハラケミカルでは、より多くの株主の皆様にご出席いただけるように、総会集中日を避け、集中日より早期の開催日設定を行っています。さらに、株主総会後には近況説明会を開催し、当社の経営状況や経営方針をご説明しています。



### IR活動

当社は適切な情報開示を行うことを重要な経営課題の一つと認識しています。その認識に基づき、当社の最新の財務・業績関連情報をホームページにて積極的に公開しています。今後もわかりやすくタイムリーな情報の提供に努めます。

### 株主還元

安定配当の継続を基本方針としています。今後も、株主の皆様に対する利益還元を重要な政策と位置付け、財務体質と経営基盤の強化を図りつつ、安定配当に努めます。

## 従業員への取り組み

### 》》 仕事と家庭の両立支援

育児休業制度、介護休業制度、育児短時間勤務制度などの制度があり、従業員に広く活用されています。両立支援制度の拡充だけでなく、両立を支援する職場風土づくりに積極的に取り組んでいます。



制度	概要	2013年度	2014年度	2015年度
育児休業制度	子が1歳に達するまで	7名	4名	5名
介護休業制度	介護の必要な家族1人につき 通算93日まで	1名	0名	0名
育児短時間勤務制度	子が小学校3年生終了まで勤務時間を 9:00~16:00(または16:30)に短縮可能	3名	6名	10名

### 》》 健康管理

毎年10月、「全国労働衛生週間」に伴い、産業医による衛生講話を開催し、従業員の健康管理についての啓発活動を行っています。

2015年は、高木工場、鶴飼工場に勤務する従業員を対象として、「ピロリ菌を退治して胃がんを防ごう!」をテーマに、胃がんに関する講話を行い、約50名の従業員が聴講しました。

また、2015年から導入した産業保健スタッフによる健康面談は、年間約100名が利用しました。2016年4月からは全事業所での面談が可能となり、すべての従業員が活用できる環境を整えています。



## 地域社会への取り組み

### 》》 スポーツ支援

当社は、女子バレーボール市民クラブチーム「岡山シーガルズ」の応援を通じて、活力ある地域社会の発展に努めています。2015年は9月に府中バレーボール教室を共催、10月に応援バスツアーに参加するなどの活動を行いました。

### 》》 職場体験学習

2015年は、8月17日から21日の期間、鶴飼工場で中学生2名を、8月19日から21日、24・25日の期間、総領工場で中学生2名を受け入れ、職場体験学習を行いました。当社での体験が少しでも将来に活かされることを願い、今後も職場体験学習の受け入れを継続していきます。

### 》》 清掃活動

地域社会への感謝の気持ちを忘れずに、本社事務所、各工場周辺の清掃を定期的に行っています。





<http://www.yschem.co.jp/>

ヤスハラケミカル株式会社

〒726-8632 広島県府中市高木町1080番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

UD FONT  
見やすいユニバーサルフォントを  
採用しています。